

5.1.3 今後の取り組み

(1) 思い入れの場・物に対する「思い」の質の検討

予測結果を踏まえ、環境影響がある場合に、今後の取り組みを検討した。

今後の取り組みを検討していく上で、思い入れの場・物に対してどのような「思い」があるのかということをしてできる限り客観的に把握する必要がある。そのため、この「思い」がどのようなもので、また、どの程度なのかを把握するために、SD法を適用し、表 5.1-1 及び 18 に示す内容で SD 法アンケート調査を実施した。

表 5.1-18 SD 法アンケート調査で採用した形容詞対

形容詞対	
趣のある	趣のない
残したい	残さなくてもよい
郷土色のある	郷土色のない
歴史を感じる	歴史を感じない
文化的な	文化的でない
美しい	美しくない
貴重な	貴重ではない
荘厳な	気楽な
見つけにくい	見つけやすい
寂しい	にぎやかな
訪れたい	訪れたくない
自然豊かな	自然豊かでない
古い	古くない
地域とのつながりを感じる	地域とのつながりを感じない

思い入れの場・物に対する「思い」の質を把握するために、SD法アンケート調査結果を2つの方法で検討した。

1) 思い入れの場・物の個別検討

SD法アンケート調査では、表 5.1-1 に示すとおり、調査対象者は、富士町役場職員(以下「富士町役場」という。)、北山中学校生徒(以下「周辺中学生」という。)、嘉瀬川ダム周辺の住民(以下「周辺住民」という。)及び佐賀県庁職員(以下「佐賀県庁」という。)とし、それぞれで約 20 名のアンケート調査対象者を抽出した。つまり、嘉瀬川ダム周辺の成人の意向を知る母集団として富士町役場を、同じく嘉瀬川

ダム周辺の若年層の意向を知る母集団として同町の北山中学校生徒を、また、嘉瀬川ダム周辺以外の一般的傾向を知る母集団として佐賀県庁職員を想定した。富士町役場を例にあげると、富士町役場を母集団とし、無作為 20 名のサンプル調査を行ったことになる。

このサンプル調査の結果を、単純に、そのままの状態を活用すると、得られた結果は、あくまでもサンプルの結果となってしまふ。そこで、統計的手法を取り入れ、このサンプル調査の結果から母集団の傾向を導き出すことにした。

統計的手法として、ここでは、平均値とその信頼区間で表す手法を採用した。これにより、サンプル調査の結果から母集団の傾向を統計的に把握することができると考えた。

環境影響があると予測された思い入れの場・物に対して、その概要と SD 法アンケート調査結果から得られた「思い」の質を表 5.1-19 に整理した。表 5.1-19 において、平均値とその信頼区間で表す手法を用いて、SD 法アンケート調査の結果をグラフにより示す。このグラフの見方を図 5.1-4 に示す。

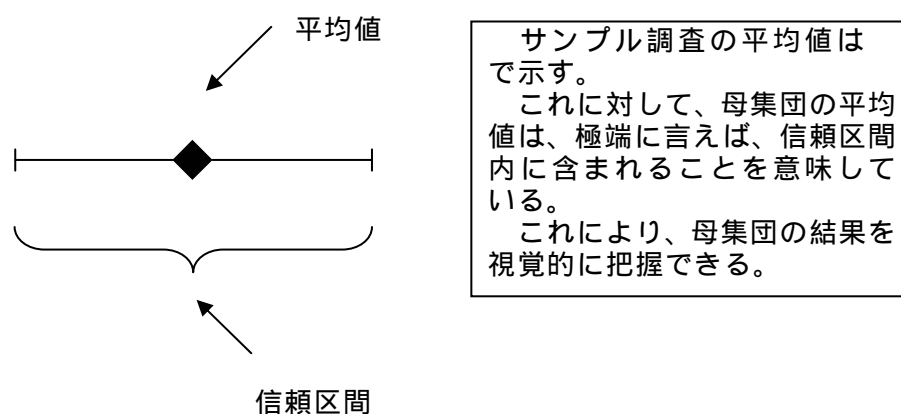


図 5.1-4 グラフの見方

表 5.1-19(1) 影響があると予測される思い入れの場・物


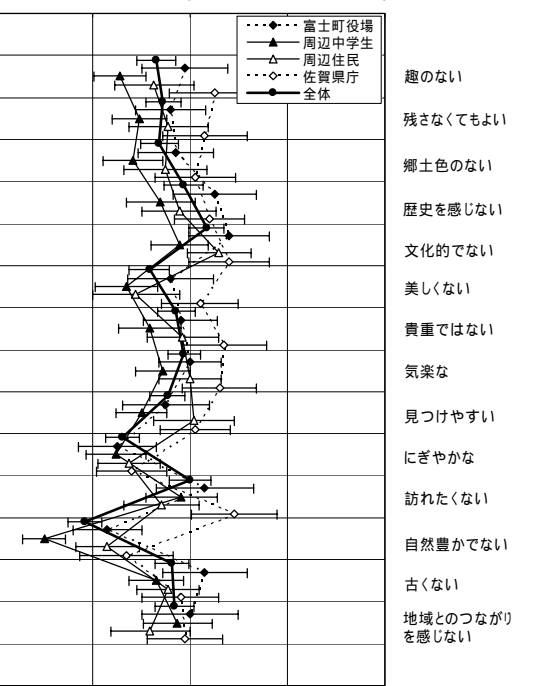
思い入れの場・物	東畑瀬の集落と権現山の風景 <場所に係る内容 - 思い入れの景観>	
影響の内容	見る対象である権現山は改変を受けないので影響はないが、東畑瀬及びこの風景を見る地点である国道 323 号の西畑瀬側は貯水池により消失する。見る地点が消失するため、この風景も消失する。	
概要	<p>区長ヒアリング調査によると、「国道 323 号の西畑瀬側から、権現山を見る眺めが良かった。」という話があった。</p> <p>これは、自分たちが住んでいる東畑瀬集落のわらびき屋根やトタン屋根の家並み、一般国道 323 号から東畑瀬地区へ通じる畑瀬橋、東畑瀬地区の氏神様を祀った豊富宮とその背後に控える鎮守の森、さらに、権現山といった東畑瀬地区の住民にとって生活の基盤であり、心の拠り所としている物を一度に眺めることができ、自分の故郷、つまり、自分のアイデンティティを思い起こさせる風景であると考えられる。</p>	
SD アンケート調査、区長ヒアリング調査、小学生アンケートの結果	<p>SD 法アンケート調査結果から、全体について、ほとんどの形容詞が 3 前後を示しているが、「寂しい」及び「自然豊かな」は 2 前後を示しており、強く出ていることが読み取れる。</p> <p>また、周辺住民、富士町役場、周辺中学生及び佐賀県庁の調査対象者間の相対的な違いを見ると、ほとんどの形容詞に対して、周辺中学生は左寄り、佐賀県庁は右寄りとなっています。特に、周辺中学生の「自然豊かな」が左寄り、つまり、強く出ている。</p> <p>一方、周辺住民及び富士町役場については、「寂しい」及び「自然豊かな」は 2 に近いものの、その他は 3 前後を示しており、強くも弱くも出ていないという結果になっている。これは、東畑瀬の住民はほとんどが既に移転しているため、わらびき屋根やトタン屋根の家並みという自分たちの生活そのものを見つけることができず、自分たちの生活感や生活の匂いが詰まった風景とは全く別のものあり、自分の心象風景と写真に示す風景を同一のものとして、同一の価値があるものとして認識できなかつた、又は、認識しなかつたとも考えられる。</p>	

表 5.1-19(2) 影響があると予測される思い入れの場・物


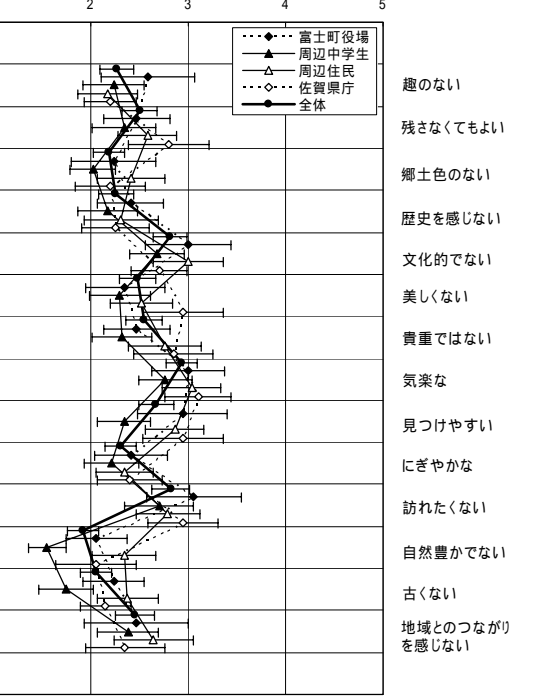
思い入れの場・物	畑瀬橋の東畑瀬側から権現山の風景 <場所に係る内容 - 思い入れの景観 >	
影響の内容	見る対象である権現山は改変を受けないので影響はないが、この風景を見る地点である畑瀬橋付近は貯水池により消失する。見る地点が消失するため、この風景も消失する。	
概要	<p>区長ヒアリング調査によると、「印象に残る風景は、橋の付近から豊富宮、その裏の鎮守の森とその背後の権現山を眺めた景色である。」という話があった。</p> <p>これは、自分たちが住んでいる東畑瀬集落のわらぶき屋根やトタン屋根の家並み、権現山といった東畑瀬地区の住民にとって生活の基盤であり、心の拠り所としている物を間近で眺めることができ、自分の故郷、つまり、自分のアイデンティティを思い起こさせる風景であると考えられる。</p>	
SD アンケート調査、区長ヒアリング調査、小学生調査の結果	<p>SD 法アンケート調査結果から、全体について、「郷土色のある」、「歴史を感じる」、「自然豊かな」及び「古い」は2前後を示しており、強く出ていることが読み取れる。</p> <p>また、周辺住民、富士町役場、周辺中学生及び佐賀県庁の調査対象者間の相対的な違いを見ると、ほとんどの形容詞に対して周辺中学生は左寄りとなっており、特に「自然豊かな」及び「古い」に対して特に強く出ている。</p> <p>この風景についても、東畑瀬の住民はほとんどが既に移転しているため、わらぶき屋根やトタン屋根の家並みという自分たちの生活そのものを見つけることができず、自分たちの生活感や生活の匂いが詰まった風景とは全く別のものであり、自分の心象風景と写真に示す風景を同一のものとして、同一の価値があるものとして認識できなかった、又は、認識しなくなかったとも考えられる。</p>	

表 5.1-19(3) 影響があると予測される思い入れの場・物


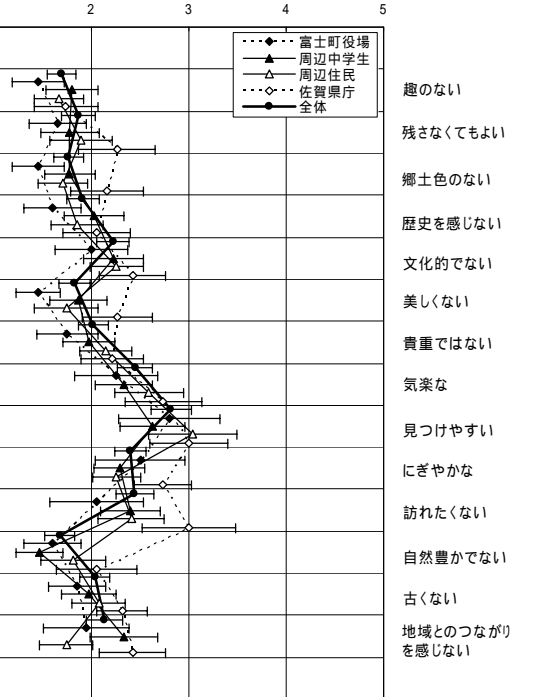
思い入れの場・物	畑瀬橋の西畑瀬側から豊富宮の風景 <場所に係る内容 - 思い入れの景観 >	
影響の内容	見る対象である豊富宮及びその裏の鎮守の森は貯水池により消失する。見る地点である畑瀬橋の西畑瀬側は貯水池により消失する。見る地点が消失するため、この風景も消失する。 なお、豊富宮は既に移設されている。	
概要	<p>区長ヒアリング調査によると、「印象に残る風景は、畑瀬橋の付近から豊富宮、その裏の鎮守の森とその背後の権現山を眺めた景色である。」という話があった。</p> <p>これは、自分たちが住んでいる東畑瀬集落のわらぶき屋根やトタン屋根の家並み、一般国道 323 号から東畑瀬地区へ通じる畑瀬橋、東畑瀬地区の氏神様を祀った豊富宮とその背後に控える鎮守の森といった東畑瀬地区の住民にとって生活の基盤であり、心の拠り所としている物を間近で眺めることができ、自分の故郷、つまり、自分のアイデンティティを思い起こさせる風景であると考えられる。</p>	
SD 法アンケート調査、区長ヒアリング調査及び小学生アンケート調査の結果	<p>SD 法アンケート調査結果から、全体について、「見つけにくい」以外は2前後を示しており、特に、「趣のある」及び「自然豊かな」が非常に強く出ていることが読み取れる。</p> <p>また、周辺住民、富士町役場、周辺中学生及び差が県庁の調査対象者間の相対的な違いを見ると、ほとんどの形容詞に対して佐賀県庁は右寄りとなっており、特に、「訪れたい」が3前後を示している。</p> <p>この風景と同様の絵画が富士町役場に飾られていることから知名度、注目度は高いと考えられる。</p> <p>さらに、この風景の中央部には畑瀬橋が写っている。この畑瀬橋は一般国道 323 号からの入口にあたり、東畑瀬の住民にとっては玄関口であると考えられる。</p>	

表 5.1-19(4) 影響があると予測される思い入れの場・物


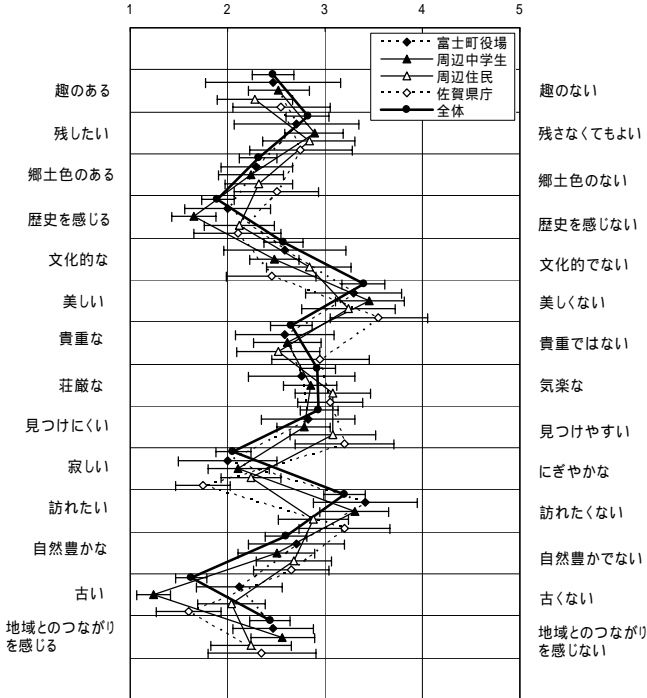
<p>思い入れの場・物</p>	<p>祇園祭り(毘沙門堂) < 行為 - 人と人との触れ合いの活動の場 > 毘沙門堂 < 構造物 - 地域の文化的遺産 ></p>
<p>影響の内容</p>	<p>祇園祭りは、1972年(昭和47年)から23年間(1995年(平成7年))まで続いた祭りである。この祭りは、東畑瀬地区の住民により、夏祭りとして開催されていたので、東畑瀬地区の住民の移転により、祇園祭りは行われなくなったと考えられる。 毘沙門堂は貯水池により消失する。</p>
<p>概要</p>	<p>区長ヒアリング調査によると、「8月3日に祇園祭り(夏祭り)があった。昭和47年あたりから、23年間続いた。祇園は毘沙門堂にあり、ここが子供たちのこままわし等を行う遊び場だった。」という話があった。 毘沙門堂は東畑瀬地区の子供たちの溜まり場のような存在で、交流の拠点であったと考えられる。また、夏祭りである祇園祭りが行われることから、楽しい思い出のつまった場所という印象が強いと考えられる。</p> 
<p>SD 法アンケート調査、区長ヒアリング調査及び小学生アンケート調査の結果</p>	<p>SD 法アンケート調査結果から、全体について、「歴史を感じる」、「寂しい」及び「古い」が2前後を示しており、強く出ていることが読み取れる。 また、周辺住民、富士町役場、周辺中学生及び佐賀県庁の調査対象者間の相対的な違いを見ると、周辺中学生及び佐賀県庁が「古い」に対して強く出ている。 「古い」に対して、周辺中学生及び佐賀県庁が非常に強く出ているが、富士町役場や周辺住民のように、日々の生活の中で、小さいころの遊び場や祇園まつりの会場という記憶が毘沙門堂には溶け込んでいるため、ただ単に古いだけではないという感情が隠されているのではないかと考えられる。これを裏付けるものとして、「地域とのつながりを感じる」に対して、若干ですが、周辺中学生及び佐賀県庁よりも富士町役場や周辺住民の方が強く出ている。</p> 

表 5.1-19(5) 影響があると予測される思い入れの場・物


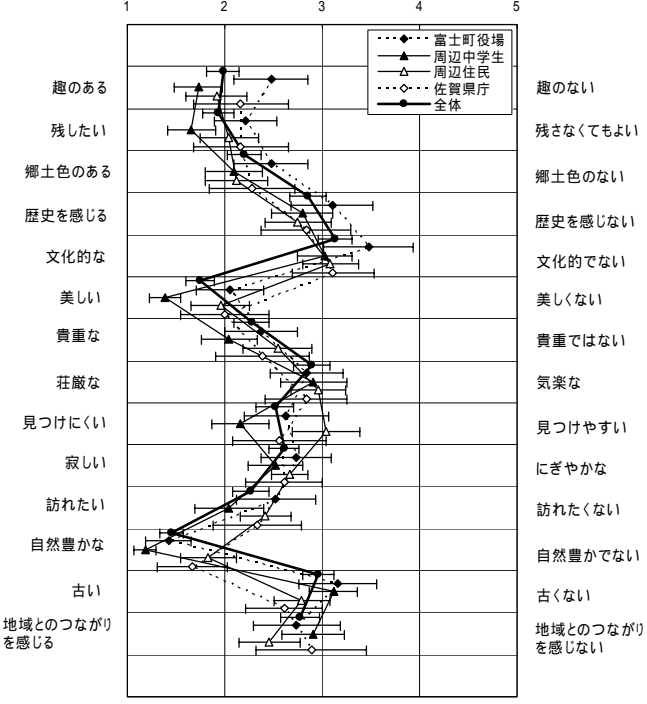
<p>思い入れの場・物 影響の内容</p>	<p>天神杉 < 構造物 - 地域の文化的遺産 > 天神杉は貯水池により消失する。</p>
<p>概要</p>	<p>区長ヒアリング調査によると、「天神様の所の天神杉は佐賀県の名木・古木として指定されており、樹齢 500 年である。」という話があった。 天神杉は、佐賀県の名木・古木として指定されており、樹齢 500 年である。天神杉の根元には、天神様を祀った祠があり、天神杉が位置している東畑瀬地区の住民の間では、御神木のような存在であったと考えられる。</p> 
<p>SD 法アンケート調査、区長ヒアリング調査及び小学生アンケート調査の結果</p>	<p>SD 法アンケート調査結果から、全体について、「趣のある」、「残したい」、「美しい」及び「自然豊かな」が 2 以下を示しており、非常に強く出ていることが読み取れる。 また、周辺住民、富士町役場、周辺中学生及び佐賀県庁の調査対象者間の相対的な違いを見ると、ほんとの形容詞に対して、周辺中学生が左寄りを出しており、特に、「自然豊かな」が非常に強く出ている。</p> 

表 5.1-19(6) 影響があると予測される思い入れの場・物

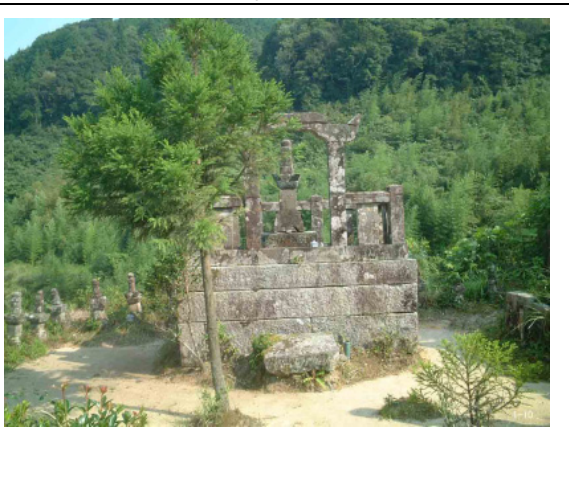
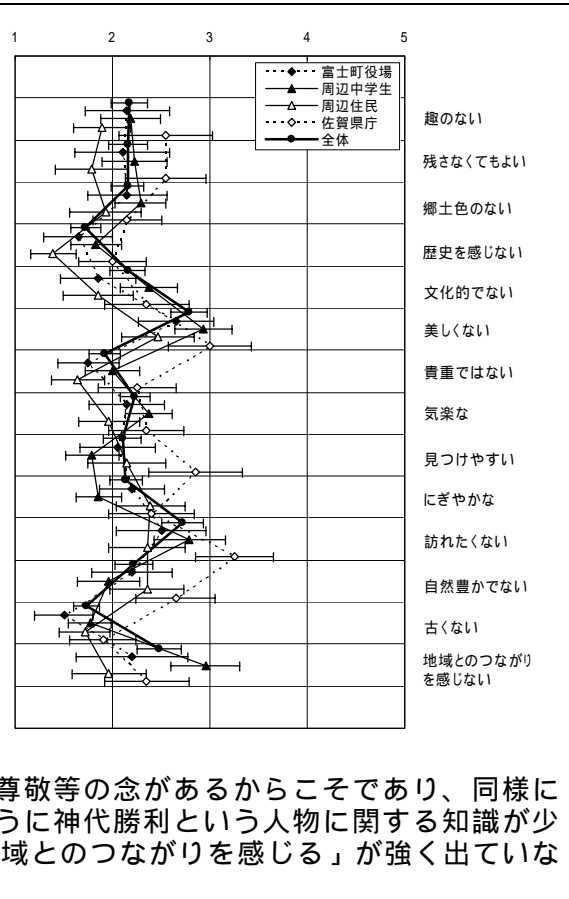
思い入れの場・物	神代勝利の墓 < 構造物 - 地域の文化的遺産 >	
影響の内容	神代勝利の墓は貯水池により消失する。 なお、神代勝利の墓は、移設されることが決まっている。	
概要	<p>神代勝利の墓は、富士町指定の重要文化財(建造物)であり、曹洞宗の宗源院の裏山に祀られた戦国武将神代勝利の墓であり、神代勝利の墓の左右には十六基の侍臣の五輪塔が配されている。</p>	
SD アンケート調査結果	<p>SD 法アンケート調査結果から、全体として、「美しい」及び「訪れたい」については 3 前後を示しているが、それ以外の形容詞は 2 前後を示しており、強く出ていることが読み取れる。</p> <p>また、周辺住民、富士町役場、周辺中学生及び佐賀県庁の調査対象者間の相対的な違いを見ると、周辺住民の「趣のある」、「残したい」、「郷土色のある」、「歴史を感じる」、「貴重な」、「荘厳な」、「訪れたい」及び「地域とのつながりを感じる」に対して、富士町役場、周辺中学生及び佐賀県庁と比較して、強く出しており、戦国時代の地元の英雄とも言うべき神代勝利への「思い」の強さが感じられる。</p> <p>また、この「思い」は、神代勝利という歴史上の人物に対する尊敬等の念があるからこそであり、同様に地元で生活していても周辺中学生のように神代勝利という人物に関する知識が少ないと考えられる場合は、例えば、「地域とのつながりを感じる」が強く出ていることが分かる。</p>	

表 5.1-19(7) 影響があると予測される思い入れの場・物


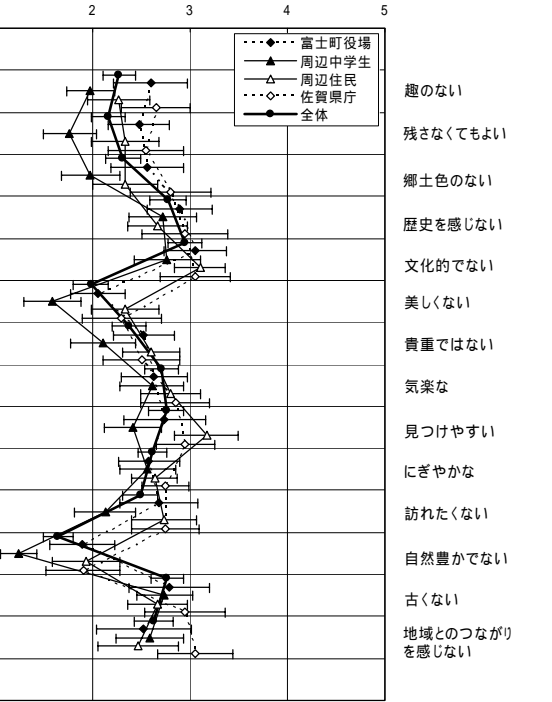

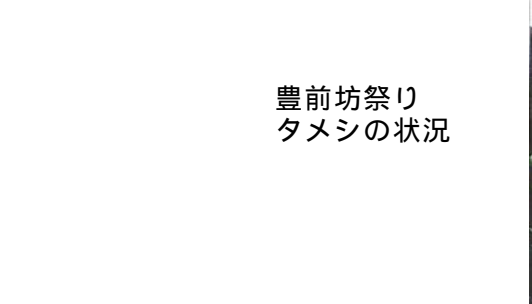


思い入れの場・物	西畑瀬代替地から権現山の風景 <場所 - 思い入れの景観>	
影響の内容	西畑瀬代替地及び権現山は改変を受けないが、この風景については、貯水池が出現するので、これまで山と樹林により構成されていた風景が、山と樹林と貯水池により構成されることになり、風景が一変する。	
概要	<p>区長ヒアリング調査によると、「西畑瀬代替地に移転して、今まで権現山を下から眺めていたが、今は横から眺めるよう視線が変わった。昔の人は、日の出の時に、東に位置する権現山に向かい拝んでいた。西畑瀬代替地に移転した人も、権現山が見えるところに住みたいという気持ちもあったのだろう。」という話があった。</p> <p>日の出ずる方向に位置する権現山からの日の出を拝むということが生活の一部になっており、権現山に対する信仰心と日の出が重なり、心の拠り所となる風景であると考えられる。</p>	
SD 法アンケート調査、区長ヒアリング調査及び小学生アンケート調査の結果	<p>SD 法アンケート調査結果から、全体について、「美しい」及び「自然豊かな」が2以下を示し、強く出ていることが読み取れる。</p> <p>また、周辺住民、富士町役場、周辺中学生及び佐賀県庁の調査対象者間の相対的な違いを見ると、周辺中学生が、周辺住民、富士町役場及び佐賀県庁より、ほとんどの形容詞に対して、非常に強く出ている。特に、「残したい」、「美しい」及び「自然豊かな」に対しては突出している。</p>	

表 5.1-19(8) 影響があると予測される思い入れの場・物

<p>思い入れの場・物</p>	<p>初参り・大祭り(畑瀬神社) < 行為 - 人と人との触れ合いの活動の場 > 畑瀬神社 < 構造物 - 地域の文化的遺産 ></p>	
<p>影響の内容</p>	<p>初参り・大祭りは、西畑瀬地区の住民により開催されていたので、西畑瀬地区の住民の移転により、行われなくなったと考えられる。 畑瀬神社は貯水池により消失する。</p>	
<p>概要</p>	<p>区長ヒアリング調査によると、「かつては白鬚神社と呼ばれていた。西畑瀬地区の人は、移転前は、初参りは畑瀬神社に行っていた。12月15日に近い土日に大祭りが開催されていた。平成16年からは湯の里代替地で行われるであろう。西畑瀬代替地の氏子は25戸として残る。」という話があった。 畑瀬神社はお祭りの会場であり、境内には御神木と位置付けられる古木・巨木もある。西畑瀬地区のコミュニティが形成されていく段階で、人々の拠り所、守り神のような存在であると考えられる。</p>	
<p>SD 法アンケート調査、区長ヒアリング調査及び小学生アンケート調査の結果</p>	<p>SD 法アンケート調査結果から、全体について、「訪れたい」が3前後を示しているが、その他の形容詞は2前後を示しており、強く出ていることが読み取れる。 また、周辺住民、富士町役場、周辺中学生及び佐賀県庁の調査対象者間の相対的な違いを見ると、「自然豊かな」について、周辺中学生が、周辺住民、富士町役場及び佐賀県庁よりも非常に強く出しており、中学生である子供と周辺住民等の大人で、「自然豊かな」、つまり、「自然」に対する感覚が異なることが読み取れる。</p>	

表 5.1-19(9) 影響があると予測される思い入れの場・物

思い入れの場・物	豊前坊祭り(豊前坊様) < 行為 - 人と人との触れ合いの活動の場 >
影響の内容	豊前坊祭りは栗並地区の馬場古集落の住民により開催されていたので、栗並地区の馬場古集落の住民の移転により、行われなくなったと考えられる。 なお、豊前坊祭りは豊前坊様で開催されていたが、豊前坊様は改変を受けない。
概要	<p>区長ヒアリング結果によると、「馬場古にはもともと 13、14 戸あった。現在は、ほとんど移転してしまったため、豊前坊祭りは今は行っていない。集落の人はばらばらに移転していった。豊前坊祭りではタメシ(酒占い)を行った。」という話があった。</p> <p>豊前坊祭りは、豊前坊様で毎年 9 月 14 日に行われていた。豊前坊様は稲の神様であり、山伏姿をした男の神様ではないかと言われ、石でできた屋敷型の祠で祭祀されている。豊前坊様の傍らには小さな甕が埋めてあり、この甕に日本酒を 1 年間入れたままにしておき、1 年に 1 回、豊全坊祭りの時に、甕を開けて、稲の豊凶を占っていた。この占いはタメシと呼ばれており、日本酒に虫がわいていたら、虫が多くなるので不作になると言われていた。</p> <p>馬場古の住民にとって、豊前坊様は祈願の場所であり、豊前坊祭りで豊作を願って占う場所でもある。馬場古の住民にとっての生活基盤である農業と密接に関係したものであると考えられる。</p> <div data-bbox="343 846 877 1220">  <p>豊前坊祭りの状況</p> </div> <div data-bbox="343 1232 877 1534">  <p>豊前坊祭り タメシの状況</p> </div> <div data-bbox="877 1232 1404 1534">  <p>豊前坊祭り 釣り籤で来年の当番を選定 している状況</p> </div> <div data-bbox="343 1545 877 1870">  <p>豊前坊祭り 釣り籤で来年の当番を選定 している状況</p> </div>

注)豊前坊祭りは、人と人との触れ合いの活動の場であり、ものとして実体のないものであることから、写真を媒体にした SD 法アンケート調査を実施することができないため、「思い」の質を把握することができない。

そこで、思い入れの場・物の影響の内容及び概要のみを示す。

資料:嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書(嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会 平成 12 年 3 月)をもとに作成

表 5.1-19(10) 影響があると予測される思い入れの場・物


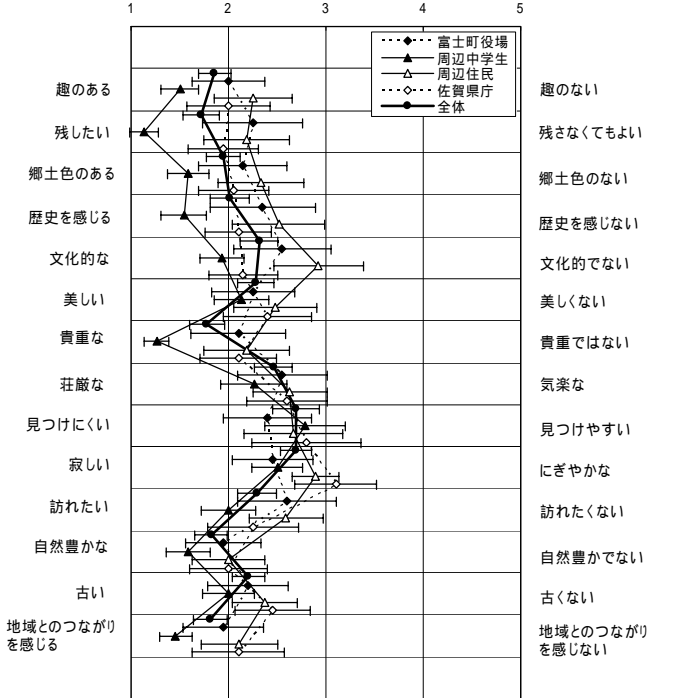
<p>思い入れの場・物</p>	<p>夫婦石祭り(夫婦石) < 行為 - 人と人との触れ合いの活動の場 > 夫婦石 < 構造物 - 地域の文化的遺産 ></p>
<p>影響の内容</p>	<p>夫婦石祭りは、子安神社で開催される風祭りと同時期に、夫婦石にて開催される。夫婦石は貯水池により消失する。祭りにおける開催場所と祀るものが消失する。 夫婦石は貯水池により消失する。</p>
<p>概要</p>	<p>区長ヒアリング調査によると、「夫婦石祭りが風祭りと同じ9月に開催される。」という話があった。 夫婦石祭りは、栗並地区の子安神社で開催される風祭りと同時期に、夫婦石で開催されるが、中心となる風祭りの会場は子安神社である。風祭りは、台風による作物の被害がないことを願って行われる。栗並地区の住民にとっては、祈願の場所であり、豊作を願う場所であり、生活の基盤である農業と密接に関係したものであると考えられる。</p> 
<p>SD 法アンケート調査、区長ヒアリング調査及び小学生アンケート調査の結果</p>	<p>SD 法アンケート調査結果から、全体について、「見つけにくい」及び「寂しい」は3前後を示しているが、その他の形容詞は2前後を示しており、強く出ていることが読み取れる。 また、周辺住民、富士町役場、周辺中学生及び佐賀県庁の調査対象者間の相対的な違いを見ると、周辺中学生が、周辺住民、富士町役場及び佐賀県庁と異なる傾向を示している。 特に、周辺中学生の「趣のある」、「残したい」、「郷土色のある」、「歴史を感じる」、「貴重な」、「自然豊かな」及び「地域とのつながりを感じる」に対する「思い」が非常に強く出ており、この夫婦石が周辺中学生にとって、日常の遊び場である等の何かしらの要因が考えられる。 また、この夫婦石では、夫婦石祭りが現在も行われているため、周辺中学生にとって、「地域のつながりを感じる」場・物となっているとも考えられる。</p> 

表 5.1-19(11) 影響があると予測される思い入れの場・物


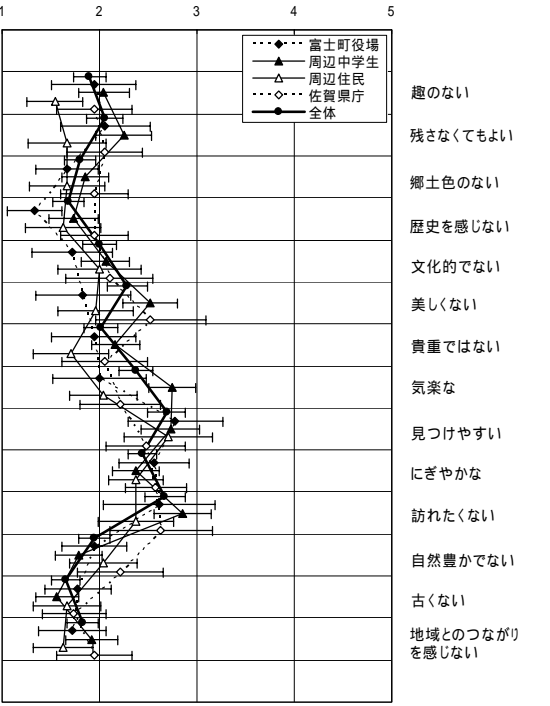
思い入れの場・物	昭安橋 < 構造物 - 地域の歴史的遺産 >	
影響の内容	昭安橋は貯水池により消失する。 なお、昭安橋と一体と位置付けられている子安神社の神殿は既に移設されているが、古木は移設されず、消失する。	
概要	<p>区長ヒアリング調査によると、「集落の中では子安神社がもっとも印象的なもので、石垣、石橋(昭安橋)、古木、神殿がセットになっている。」という話があった。</p> <p>子安神社への玄関口という位置付けで、子安神社、石垣、昭安橋、古木が一体となり、さらに、子安神社を囲むように鎮守の森が広がっており、栗並地区の住民の信仰心が強く表れる場所であると考えられる。</p>	
SD 法アンケート調査、区長ヒアリング調査及び小学生アンケート調査の結果	<p>SD 法アンケート調査結果から、全体として、「見つけにくい」及び「訪れたい」は 3 前後を示しているが、その他の形容詞は 2 前後を示しており、強く出ていることが読み取れる。</p> <p>また、周辺住民、富士町役場、周辺中学生及び佐賀県庁の調査対象者間の相対的な違いを見ると、特に、「趣のある」、「残したい」及び「貴重な」に対する、周辺住民の「思い」が非常に強く出ており、周辺住民にとって、昭安橋がいかに思い入れのあるものかということが読み取れる。</p>	

表 5.1-19(12) 影響があると予測される思い入れの場・物


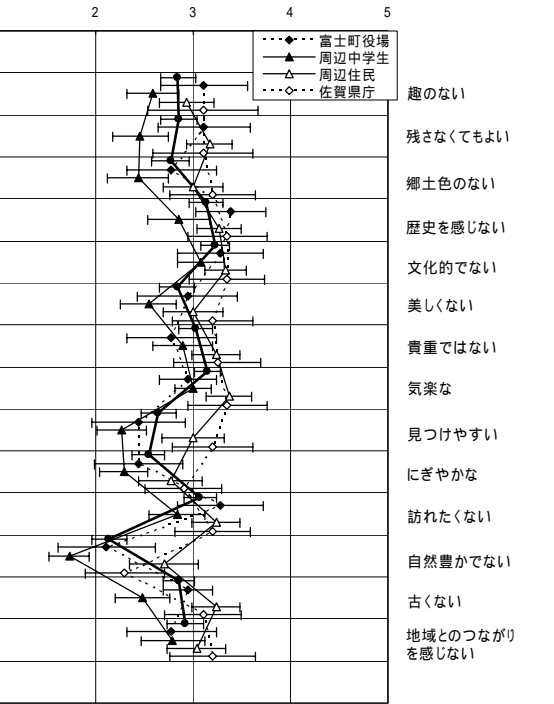
<p>思い入れの場・物</p>	<p>大串の浦川橋からの風景 < 場所 - 思い入れの景観 ></p>	
<p>影響の内容</p>	<p>見る対象である山は改変を受けないが、見る地点である浦川橋は貯水池により消失する。見る地点が消失するため、この風景も消失する。</p>	
<p>概要</p>	<p>小学生アンケート調査によると、「大串のうらかわばしから山をながめていると山の形がなんかおもしろい形に見えてくる。」という回答があった。浦川橋から、毎日のように同じ山を見ている中で、同じ山ではあるが、その時の気象条件等により、山の形の見え方が変化し、面白い形に見えると考えられる。</p>	
<p>SD アンケート調査、区長調査、小学生アンケートの結果</p>	<p>SD 法アンケート調査結果から、全体として、「自然豊かな」以外は3前後を示しているが、「自然豊かな」は2前後を示しており、強く出ていることが読み取れる。</p> <p>また、周辺住民、富士町役場、周辺中学生及び佐賀県庁の調査対象者間の相対的な違いを見ると、周辺中学生がすべての形容詞で左寄りとなっており、特に、「自然豊かな」に対しては、2以下を示すように非常に強く出しており、この風景が、小学生アンケート調査で抽出されたものであるという結果を考慮すると、小学生や中学生という子供に対しては、通学路上に位置し、毎日のように目にしているため、非常に「思い」の強いものであると考えられる。</p>	

表 5.1-19(13) 影響があると予測される思い入れの場・物


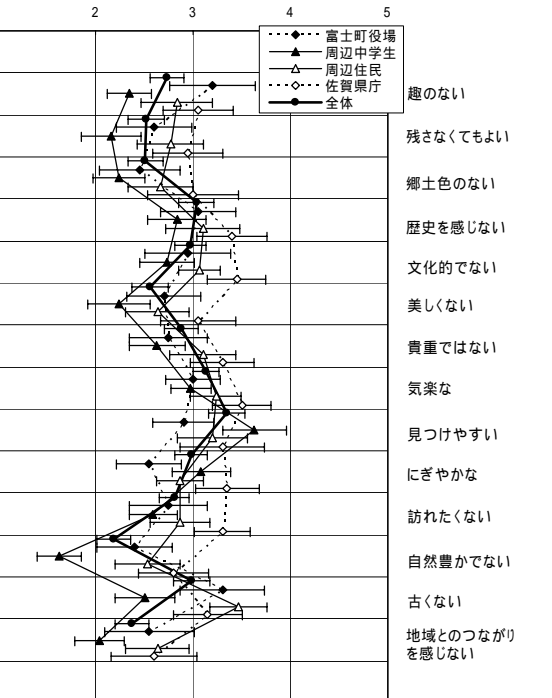
思い入れの場・物	北山小学校からの風景 <場所 - 思い入れの景観>	
影響の内容	見る対象となる山々は改変を受けないので影響はない。見る地点である北山小学校は貯水池により消失する。見る地点が消失するので、この風景も消失する。	
概要	<p>小学生アンケート調査によると、「大きな森をながめる(景色などがきれいだから。ながめるとおちつくから)」という話があった。</p> <p>小学校から見える、なだらかな山の形が心を落ち着かせてくれると考えられる。</p> <p>なお、小学生アンケート調査では、北山小学校の児童を対象とし、周辺中学生は北山中学校の生徒を対象としている。北山小学校と北山中学校は隣接しており、教室の窓から見える風景はほぼ同様であると言える。</p>	
SD アンケート調査、区長インタビュー、小学生アンケートの結果	<p>SD 法アンケート調査結果から、全体として、「自然豊かな」及び「地域とのつながりを感じる」は2前後を示し、強く出ているが、それ以外の形容詞は3前後を示していることが読み取れる。</p> <p>また、周辺住民、富士町役場、周辺中学生及び佐賀県庁の調査対象者間の相対的な違いを見ると、周辺中学生が、周辺住民、富士町役場及び佐賀県庁と異なる傾向を示している。特に、「自然豊かな」に対しては特に異なった傾向を示しており、周辺中学生にとっては、学校の教室の窓から、毎日のように見える風景、又は、見ている風景であると見え、授業中にホッと一息つくとき等に見る風景であると考えられ、周辺中学生の「思い」が突出していると読み取れる。</p> <p>このことは、この風景が、小学生アンケート調査で抽出されたものであることにも起因していると考えられる。</p>	

表 5.1-19(14) 影響があると予測される思い入れの場・物


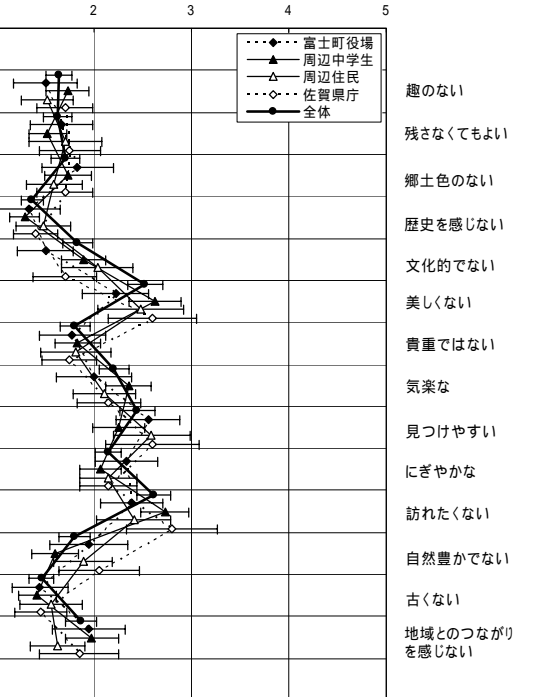
思い入れの場・物	白鬚神社 < 構造物 - 地域の文化的遺産 >	
影響の内容	白鬚神社は須田土捨場により改変を受ける。 なお、白鬚神社は移設されることは決まっている。	
概要	<p>区長ヒアリング調査によると、「須田地区は明治 6 年(1873 年)5 月から 100 日間雨が降らず、田植えができない田やせっかく植えた稲も枯死寸前、このままでは収穫ができないという状態になった。地区で協議を重ねた結果、神の力におすがりし、雨を降らせるしかない、という結論に達し、当時、南山村市川で行われていた「市川天衝舞浮立」を習って奉納したことがはじまりである。これを「鉦浮立」という。その後、現在まで約 130 年続いており、昔は 10 月 11 日に、現在は 10 月第 3 週土曜日に行っている。地区内の氏神様、すなわち権現神社、白鬚神社、天満宮、九郎神社、春日神社に奉納している。」という話があった。</p> <p>豊作を願うために行っている鉦浮立には欠かすことのできない神社であり、天候を主とした自然への畏敬の念、神頼みという意義があるものであると考えられる。</p>	
SD 法アンケート調査、区長ヒアリング調査及び小学生アンケート調査の結果	<p>SD 法アンケート調査結果から、全体として、ほとんどの形容詞が 2 前後を示し、特に、「歴史を感じる」及び「ふるい」は 1 寄りを示しており、強く出ていることが読み取れる。</p> <p>また、周辺住民、富士町役場、周辺中学生及び佐賀県庁の調査対象者間の相対的な違いは、特に読み取れない。</p> <p>この白鬚神社においては、約 130 年前から鉦浮立という行事が行われているため、特に、「郷土色のある」、「歴史を感じる」、「古い」及び「地域とのつながりを感じる」が強く出ていると考えられる。</p>	

表 5.1-19(15) 影響があると予測される思い入れの場・物

<p>思い入れの場・物</p>	<p>建設時の協力(眼鏡橋) < 行為 - 人と人との触れ合いの活動の場 > 眼鏡橋 < 構造物 - 地域の文化的遺産 ></p>
<p>影響の内容</p>	<p>眼鏡橋を建設したのは大正時代のことであるが、度重なる洪水により流されてしまう木橋に代わるものとして石製の眼鏡橋を作ることにしたという経緯があり、菖蒲地区の住民がお金を出し合い協力しあった結果であり、眼鏡橋を見るたびに先祖の苦労を思い返すような、思い入れの強いものであると考えられる。 眼鏡橋の一部が貯水池により改変を受けるので、眼鏡橋が原型を留めなくなる可能性がある。</p>
<p>概要</p>	<p>区長ヒアリング調査によると、「菖蒲地区で区域の人々の思いが一番ある場所は、眼鏡橋である。集落への玄関口にも位置する。かつて、眼鏡橋を作ったころは、集落の人はかなりの寄付を行っていたであろうし、橋の建設にかなりの協力を行っていた。今回のダム建設により、眼鏡橋の橋のたもと辺りまで水につかってしまう。崩れないかが心配である。」という話があった。 眼鏡橋は、菖蒲地区の玄関口に位置しており、菖蒲地区の住民にとって最も思い入れがある。眼鏡橋が現在のような石橋になったのは、大正5年のことである。それまでは、木橋であり、洪水の度に流出してしまうことに菖蒲地区の住民は困り果てていた。そのため、菖蒲地区の住民内で話し合いを重ね、永久橋として現在の石橋の架設を決定したという経緯がある。また、この架設には、菖蒲地区の住民がお金を出し合い、また、橋の対岸となる大野地区に対して架設の許可を求め、接待したという経緯もある。先祖達の苦労の結晶を思い起こさせるものであると考えられる。</p>
<p>SD 法アンケート調査、区長ヒアリング調査及び小学生アンケート調査の結果</p>	<p>SD 法アンケート調査結果から、全体として、「見つけにくい」は3前後を示しているが、その他の形容詞は2前後を示しており、強く出ていることが読み取れる。 また、周辺住民、富士町役場、周辺中学生及び佐賀県庁の調査対象者間の相対的な違いを見ると、「趣のある」、「美しい」、「荘厳な」及び「地域とのつながりを感じる」については、周辺住民及び富士町役場が周辺中学生と比べてより強く出ている。逆に、周辺中学生にとっては、眼鏡橋と地域の関係性を熟知しているからこそ現れた結果だと考えられる。逆に、周辺中学生にとっては、眼鏡橋と地域の関係性への認識が弱いため、「歴史を感じる」や「古い」に対しては強く出ているが、「趣のある」や「美しい」、「文化的な」、そして「荘厳な」のように、眼鏡橋の経緯や背景から連想される「思い」が含まれ、心理的側面が色濃く反映されている形容詞に対しては、強く出ていることが読み取れる。</p>



表 5.1-19(16) 影響があると予測される思い入れの場・物

<p>思い入れの場・物</p>	<p>菖蒲ご膳(菖蒲公民館) <行為 - 人と人との触れ合いの活動の場> 菖蒲夏祭り(菖蒲公民館) <行為 - 人と人との触れ合いの活動の場> 地区内外との交流(菖蒲公民館) <行為 - 人と人との触れ合いの活動の場></p>
<p>影響の内容</p>	<p>菖蒲ご膳の開催場所は公民館である。公民館は菖蒲土捨場により改変を受けるので、現在のままの公民館で菖蒲ご膳を開催することは困難になる。 菖蒲夏祭りは公民館で開催される。公民館は菖蒲土捨場により改変を受けるので、現在のままの公民館で菖蒲祭りを開催することは困難となる。 地区内外の交流の拠点となる公民館は菖蒲土捨場により改変を受けるので、現在のままの公民館を地区内外の交流の拠点とするのは困難である。</p>
<p>概要</p>	<p>区長ヒアリング調査によると、「地区内の協力や地区外との交流で一番大きな行事は菖蒲ご膳である。今回のダム関係において、毎回開催場所として利用している公民館の移設の問題等があるが、今後も続けていきたいと考えている。8月には、公民館の外で菖蒲夏祭りが行われる。盆踊りや焼肉、山菜料理等で楽しむ。菖蒲ご膳は、リピーターの方も多く、夏祭りも菖蒲ご膳参加者の方も招待している。地区外の方も呼んでいる。地区内地区外との交流は、公民館を中心として、そのつながりから、広がっていている。」という話があった。 菖蒲ご膳は、山野草摘み草料理愛好会が主催している季節の郷土料理を提供する会費制の昼食会で、平成7年1月に始まり、毎月第2日曜日に開催されている。菖蒲ご膳は、菖蒲地区で採れる旬のものを食材としており、自然の恵み、時の流れ、季節の流れを感じさせるものである。佐賀県外からの参加や貸切バスによる参加も多く、常連客と合わせると、毎回100人程度の参加者で非常に賑わっている。 菖蒲ご膳が契機となり、菖蒲地区内での交流、菖蒲地区と古湯温泉街を抱える古湯地区等の菖蒲地区外との交流が盛んとなり、街づくりへとつながっている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">  <div data-bbox="927 1704 1129 1738"> <p>菖蒲ご膳の状</p> </div> </div>

注)1. 菖蒲ご膳、菖蒲夏祭り及び地区内外との交流は、人と人との触れ合いの活動の場であり、ものとして実体的のないものであることから、写真を媒体にしたSD法アンケート調査を実施することができないため、「思い」の質を把握することができない。そこで、思い入れの場・物の影響の内容及び概要のみを示す。
 2. *: 菖蒲公民館を示す。

2) 思い入れの場・物の相対的な検討

ここでは、影響があると予測された思い入れの場・物のうち、SD法アンケート調査を実施したものについて、各々の評価を相互に比較し、それぞれの思い入れの場・物の相対的な位置付け又は意味合いを把握する検討を行った。図5.1-5にすべての思い入れの場・物のSD法アンケート調査結果を示す。なお、図5.1-5には、全調査対象者の平均値を示す。

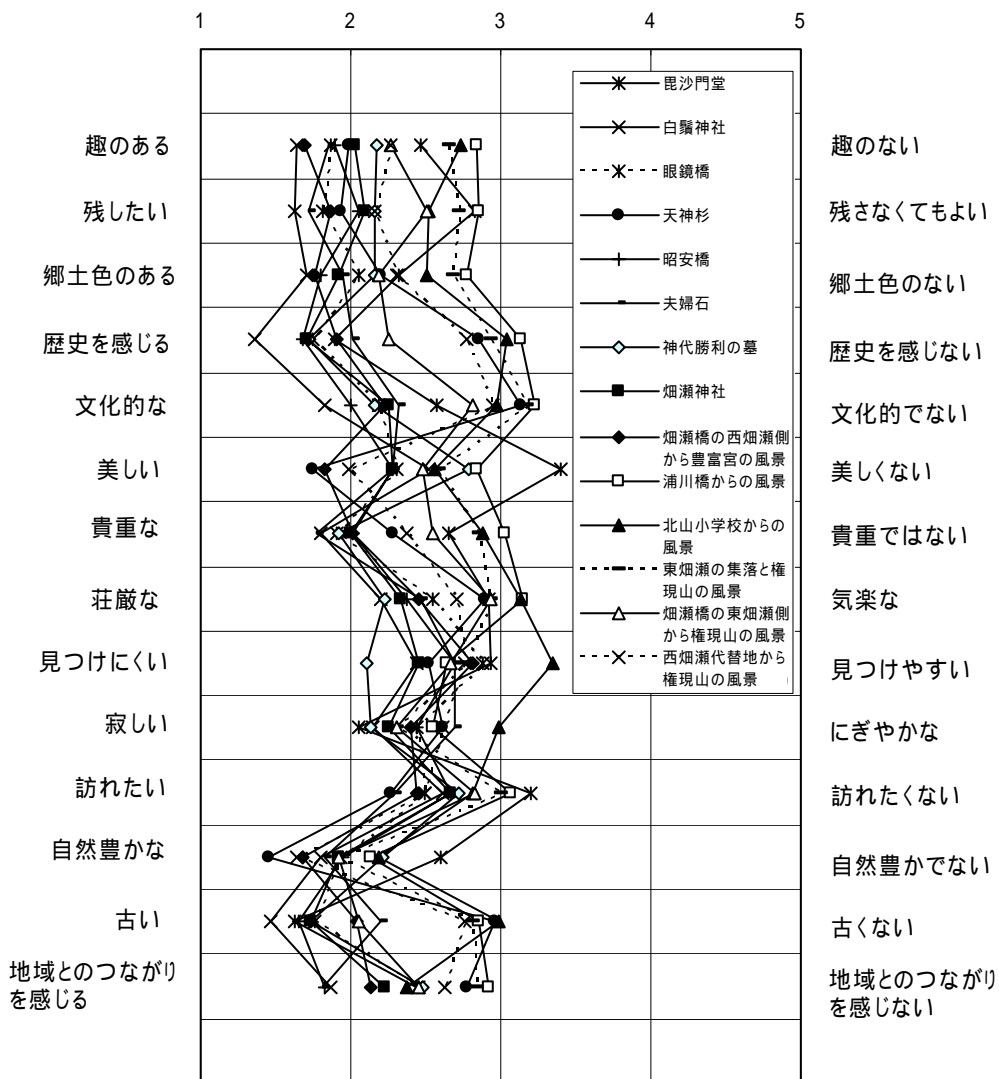


図 5.1-5 各思い入れの場・物の SD 法アンケート調査結果

思い入れの場・物の SD 法アンケート調査の各結果をそのまま重ね合わせたものが図 5.1-5 である。ここから SD 法アンケート調査結果の相対的特徴を読み取るために、グループ化を行った。グループ化の一方法として、それぞれの思い入れの場・物を、思い入れの景観、地域の文化的遺産といった環境質によりグループ化した。

地域の文化的遺産を A グループ、思い入れの景観を B グループとし、それぞれの SD 法アンケート調査結果を図 5.1-6 に示す。

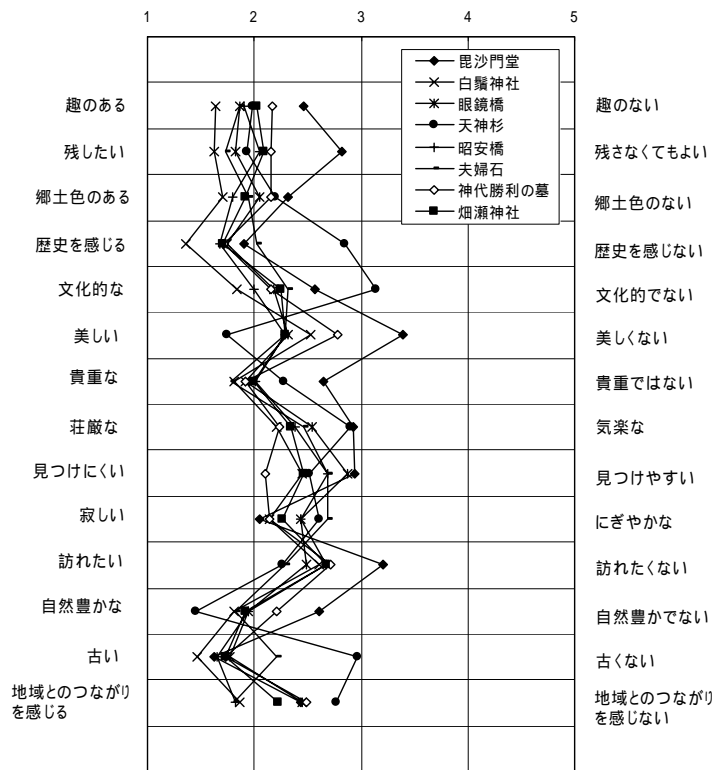


図 5.1-6(1) A グループの思い入れの場・物の SD 法アンケート調査結果

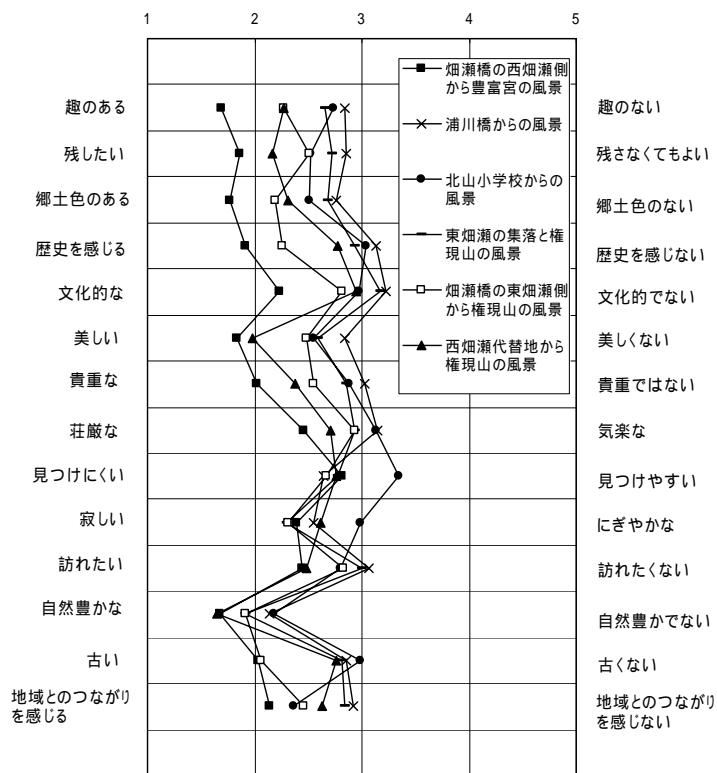


図 5.1-6(2) B グループの思い出の場・物の SD 法アンケート調査結果

図 5.1-6(1)に示す A グループについては、毘沙門堂が「残したい」、「美しい」、「貴重な」、「荘厳な」、「訪れたい」及び「自然豊かな」において、また、天神杉が「歴史を感じる」、「文化的な」、「美しい」、「荘厳な」、「自然豊かな」及び「古い」において、この他の思い出の場・物と異なる傾向を示している。このうち、天神杉について、対象とするものは、杉の巨木、つまり、自然物であり、表 5.1-19(5)に示した写真から、思い出の景観ととらえることも可能であると考え、B グループとして扱った。天神杉のグループ移動に伴いグループ名を A' 及び B' と変更し、図 5.1-7 に示す。

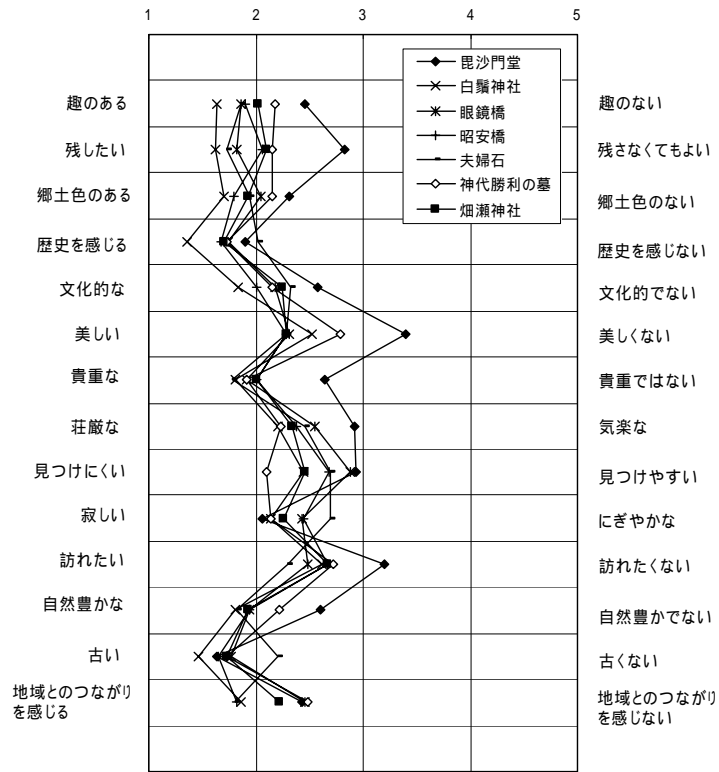


図 5.1-7(1) A'グループの思い出の場・物の SD 法アンケート調査結果

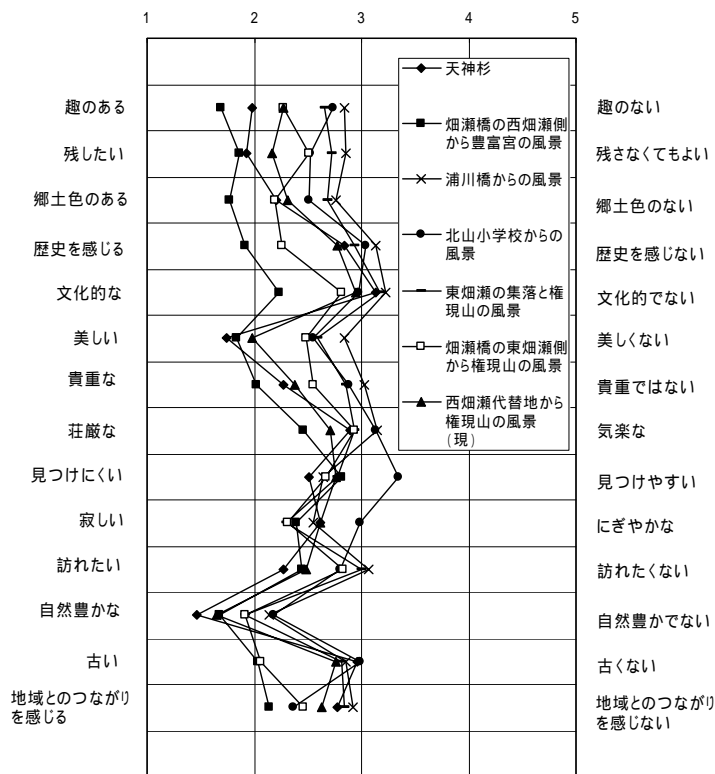









図 5.1-7(2) B'グループの思い出の場・物の SD 法アンケート調査結果

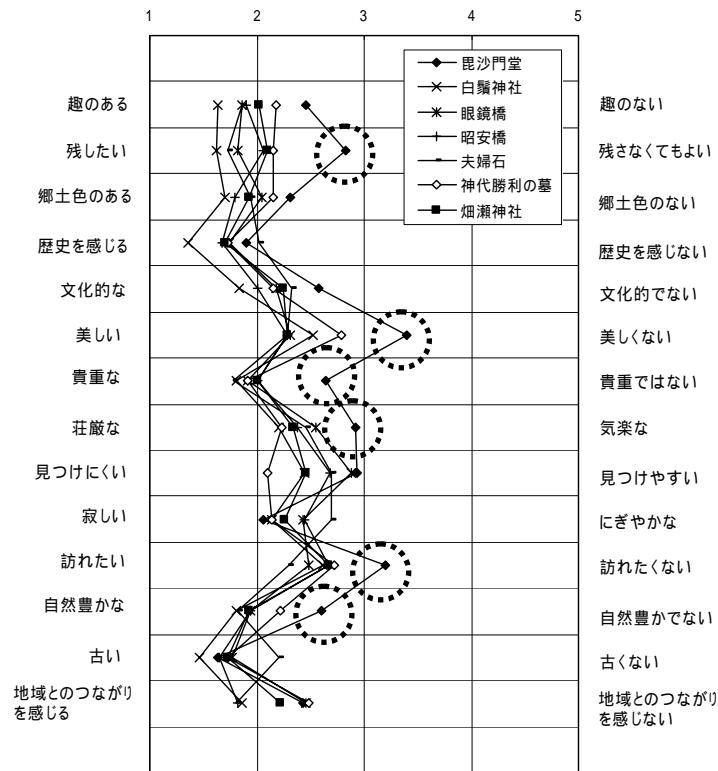
a) A'グループ

A'グループには、表 5.1-20 に示すとおり、毘沙門堂、白鬚神社、眼鏡橋、昭安橋、夫婦石、神代勝利の墓及び畑瀬神社がある。

表 5.1-20 A'グループの思い出の場・物

グループ名 思い出の 場・物	A'
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>1-1</p> <p>毘沙門堂</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>1-2</p> <p>白鬚神社</p> </div> </div>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>1-5</p> <p>眼鏡橋</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>1-7</p> <p>昭安橋</p> </div> </div>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>1-8</p> <p>夫婦石</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>1-9</p> <p>神代勝利の墓</p> </div> </div>
	<div style="text-align: center;">  <p>1-10</p> <p>畑瀬神社</p> </div>

A'グループの思い出の場・物のSD法アンケート調査結果は、図5.1-8に示すとおりである。7つの思い出の場・物とも、全体としては同じような傾向を示していますが、毘沙門堂については、図5.1-8において点線で囲ったように、「残したい」、「美しい」、「貴重な」、「荘厳な」、「訪れたい」及び「自然豊かな」が3前後に分布している。毘沙門堂以外では2前後に分布していることと比較すると、毘沙門堂では、これらの形容詞に対して、弱く出ていることが読み取れる。



注) 点線：異なる傾向を示している箇所を示します。

図5.1-8 A'グループの思い出の場・物のSD法アンケート調査結果

毘沙門堂だけが他とは異なる傾向を示す理由を検討するため、A'グループの思い出の場・物を構成しているものに着目して考え、表5.1-21に結果を整理した。

表 5.1-21 A'グループの思い出の場・物を構成しているもの

思い出の場・物	構成しているもの		
	種類	素材	周囲の状況
毘沙門堂	神社仏閣	木	家屋、舗装道
白鬚神社	神社仏閣	石	樹木
眼鏡橋	橋梁	石、コンクリート	川、樹木
昭安橋	橋梁	石	川、樹木
夫婦石	巨石	石	川、樹木
神代勝利の墓	墓	石	樹木
畑瀬神社	神社仏閣	石、木	樹木

表 5.1-21 から、毘沙門堂だけが木が主であり、周囲を家屋や舗装道、つまり、人工構造物に囲まれている。一方、毘沙門堂以外は、石が主であり、周囲を川や樹木、つまり、自然物に囲まれている。

細かく見ると、毘沙門堂は、周りを家屋や舗装道で囲まれているため、背後の山や樹木から分離され、毘沙門堂がポツンと浮いてしまい、木造建築物という点が強調されたような状態になっている。そのため、SD 法アンケート調査結果では、古い木造建築物を表現する形容詞として「古い」は強く出ているが、「美しい」や「自然豊かな」は強く出ていない。








毘沙門堂以外については、周りを川や樹木で囲まれ、川や樹木と連続的な位置付けで、石造の構造物が存在している。さらに、石造構造物の苔むした状態が、自然との一体感を強調していると考えられる。そのため、石造構造物が自然と一体となっており、自然との調和、自然との一体といった観点から、「趣のある」、「残したい」、「美しい」、「貴重な」及び「自然豊かな」が強く出ていると考えられる。

これらの違いが、毘沙門堂と毘沙門堂以外で、SD 法アンケート調査結果の傾向の違いに現れていると考えられる。

b) B'グループ

B'グループには、表 5.1-22 に示すとおり、天神杉、畑瀬橋の西畑瀬側から豊富宮の風景、大串の浦川橋からの風景、北山小学校からの風景、東畑瀬の集落と権現山の風景、畑瀬橋の東畑瀬側から権現山の風景及び西畑瀬代替地から権現山の風景がある。

表 5.1-22 B'グループの思い出の場・物

グループ名	B'	
思い出の場・物	 <p data-bbox="539 611 632 645">天神杉</p>	 <p data-bbox="895 611 1374 645">畑瀬橋の西畑瀬側から豊富宮の風景</p>
	 <p data-bbox="451 963 778 996">大串の浦川橋からの風景</p>	 <p data-bbox="1018 963 1313 996">北山小学校からの風景</p>
	 <p data-bbox="424 1314 810 1348">東畑瀬の集落と権現山の風景</p>	 <p data-bbox="895 1314 1374 1348">畑瀬橋の東畑瀬側から権現山の風景</p>
	 <p data-bbox="424 1666 842 1700">西畑瀬代替地から権現山の風景</p>	

B'グループの思い出の場・物のSD法アンケート調査結果は、図5.1-9に示すとおりである。

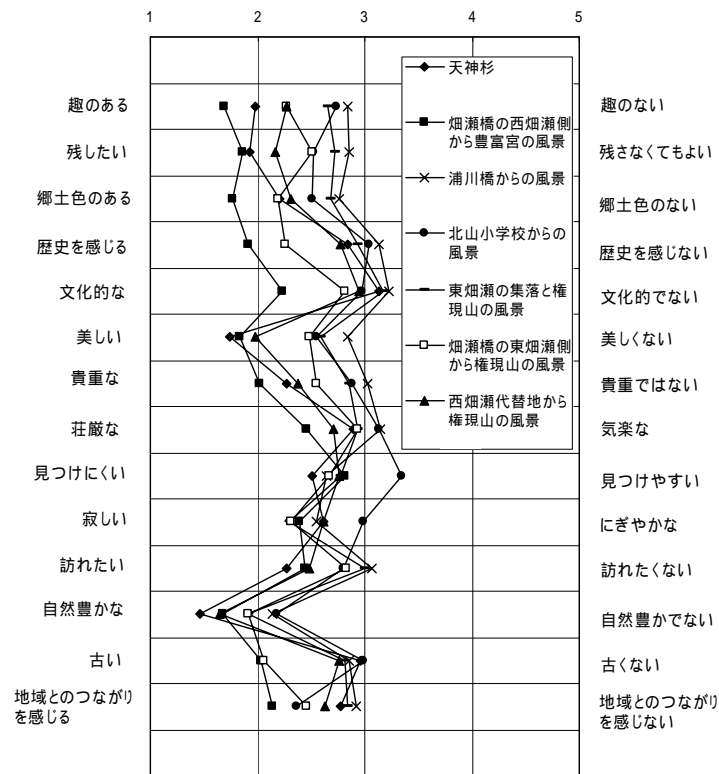


図 5.1-9 B'グループの思い出の場・物のSD法アンケート調査結果

図5.1-9に示す各SD法アンケート調査結果の形状から同様の形状を示していると判断できるものに注目しました。その結果、調査結果の形状から、B'グループを3つに細分類することができ、それぞれ、αグループ、βグループ及びγグループとしました。各グループを形成する思い出の場・物を表5.1-23に、それぞれのSD法アンケート調査結果を表5.1-24に示す。

表 5.1-23 B'グループの細分類

グループ		思い出の場・物
B'		<ul style="list-style-type: none"> 畑瀬橋の西畑瀬側から豊富宮の風景 畑瀬橋の東畑瀬側から権現山の風景
		<ul style="list-style-type: none"> 大串の浦川橋からの風景 北山小学校からの風景 東畑瀬の集落と権現山の風景
		<ul style="list-style-type: none"> 天神杉 西畑瀬代替地から権現山の風景

表 5.1-24 B'グループの細分類毎の思い入れの場・物のSD法アンケート調査結果

グループ	B'		
<p>SD法アンケート調査結果</p>			
	<p>グループは、概ね、「趣のある」から「貴重な」にかけて2前後を示しており、これは、図 5.1-10 に示す A'グループと同様の傾向を示している。</p>	<p>グループは、ほぼ全ての形容詞で3前後、つまり「どちらともいえない」を示し、特に「趣のある」から「荘厳な」にかけては3前後を示してその傾向が顕著に出ている。ただし、「自然豊かな」については2前後を示し、強く出ていると言える。また、北山小学校からの風景については、「地域とのつながりを感じる」が強く出しており、小学校という身近な場所から見える風景であることが反映されていると考えられる。</p>	<p>グループは、全体的にはグループと同様の傾向を示すが、「美しい」及び「自然豊かな」に対してのみ2以下と強く出ていること、「文化的な」、「古い」及び「地域とのつながりを感じる」が3前後と平均的な評価を示しているのが大きな特徴である。</p>

表 5.1-24 から、グループについて、「荘厳な」を境として、上側は「畑瀬橋の西畑瀬側から豊富宮の風景」と「畑瀬橋の東畑瀬側から権現山の風景」で等間隔の開きを保ったまま同じような傾向で 2 前後と強く出ている。「荘厳な」の下側は、「見つけにくい」及び「訪れたい」は 3 前後を示しているものの、「寂しい」、「自然豊かな」、「古い」及び「地域とのつながりを感じる」は 2 前後と強く出しており、しかも、ほとんど同じ傾向を示している。

グループについて、「見つけにくい」、「寂しい」及び「地域とのつながりを感じる」においてばらつきがあるものの、「大串地区の浦川橋からの風景」、「北山小学校」及び「東畑瀬の集落と権現山の風景」とも、ほとんどの形容詞で 3 前後を示し、さらに、ほとんど同じ傾向を示している。

一方、グループは、「天神杉」及び「西畑瀬代替地から権現山の風景」とも極めて同じ傾向で 1 と 3 の間で、ジグザグ状態を示している。

これら 3 グループのうち、グループ、具体的には、「畑瀬橋の西畑瀬側から豊富宮の風景」及び「畑瀬橋の東畑瀬側から権現山の風景」の両者は、いずれも 2 前後を示す形容詞が多く、「思い」が強く出ている、すなわち、「思い入れの景観」として高い評価を示しており、かつ、同じような傾向が読み取れた。そこで、 α 、

及びグループともに、風景という点では一致しているが、なぜグループは「思い入れの景観」として高い評価を示しているのか、つまり、SD 法アンケート調査結果に違いをもたらしている理由は何なのかについて検討を加えることとした。

i) グループとグループの比較

グループの 2 つには、山や樹木という自然に加え、石造の構造物、しかも、長い年月を経て苔むした周囲の自然に溶け込んだ石造の構造物が含まれているという共通点がある。「畑瀬橋の西畑瀬側から豊富宮の風景」には石及びコンクリート造の畑瀬橋があり、「畑瀬橋の東畑瀬側から権現山の風景」には民家の石垣がある。一方、グループの「天神杉」と「西畑瀬代替地から権現山の風景」には、山や樹木という自然はあるが、石造の構造物はない。そのため、グルー

ブが「思い入れの景観」として評価が高いのは、自然の中に、石造の建造物が長い年月を経て自然に溶け込んだ姿があり、この建造物に人間の営みが造ったという生活の場又は生活感を投影させているからではないかと考える。これを示すこととして、SD法アンケート調査結果では、「歴史を感じる」、「文化的な」、「古い」及び「地域とのつながりを感じる」という生活の場又は生活感に密接に関係するような形容詞がグループに比べてグループは弱く出ている。

ii) グループとグループの比較

グループについて、「大串の浦川橋からの風景」には石及びコンクリート造の建造物はあるが、この風景の主体は山々であり、生活の場又は生活感を投影させることはできないと考える。さらに、「北山小学校からの風景」も、風景の主体は山々で、生活の場又は生活感を意識させる集落もあるが、この集落は代替地であり、今後、生活の場や生活感を形成していく場である。従って、現時点では、生活の場又は生活感を投影させることはできないと考える。一方、「東畑瀬の集落と権現山の風景」には、かつては東畑瀬の集落が広がっていたが、今はほとんど移転が完了し、写真からでは集落の形跡を確認することは困難であり、生活の場又は生活感を投影させることはできず、山々が主体となった風景となっていると考える。そのため、「自然豊かな」については、及びグループとも、2前後と強く出ているが、その他の形容詞について、グループに比べてグループは弱く出ている。

なお、ここでは、全調査対象者の平均値を用いて、それぞれの思い入れの場・物の相対的な位置付け又は意味合いを把握することを目的として検討を行ってきた。そのため、調査対象者によっては、ここに記載した内容以上のことが読み取れる場合もあると考えている。さらに、写真で示した思い入れの場・物に対してSD法アンケート調査を行っているので、あくまでも、写真に対する「思い」を反映している結果であると考えている。

(2) 今後の取り組み

今後の取り組みを検討する上で、重要な視点は、SD法アンケート調査結果において、「残したい」といった結果が強く現れた思い入れの場・物そのものの存続である。そのため、「残したい」が強く読み取れるものに対して、今後の取り組みについて検討した。

「(1) 思い入れの場・物に対する「思い」の質の検討」に示したSD法アンケート調査結果から、天神杉、夫婦石、眼鏡橋及び白鬚神社について、「残したい」が特に強く読み取れたので、これらの思い入れの場・物に対して今後の取り組みについて検討した。

ここで、天神杉等と同様に「残したい」が特に強く読み取れたもののうち、既に今後の取り組み内容が決定しているもの、また、現実的な取り組みが想定できないものについてはここでの検討は行わないこととした。

これまでの検討内容を受けて、思い入れの場・物に対する「思い」と今後の取り組みを考える上での留意点を表5.1-25に示す。

表 5.1-25 思い入れの場・物に対する住民の「思い」と

今後の取り組みを考える上での留意点

思い入れの場・物	「思い」と今後の取り組みを考える上での留意点
天神杉	天神杉は、佐賀県の名木・古木に指定されており、樹齢 500 年と言われている。天神杉の根元には、天神様を祀った祠があり、東畑瀬地区の住民の間では御神木のような存在と考えられるので、天神杉を地域の守り神とした自然信仰が存在したことを次世代に継承するような住民の天神杉に対する信仰心を生かすような形で、次世代への継承が必要と考えられる。
夫婦石	夫婦石は、栗並地区の住民にとっては、豊作を願って祈願する場所であり対象でもある。そのため、場所や姿形は変わることになるかもしれないが、住民の生活基盤である農業と密接に繋がり、豊作祈願の対象として、継承されていく必要があると考えられる。
眼鏡橋	眼鏡橋は、菖蒲地区の玄関口であり、シンボルである。菖蒲地区の住民にとっては、先祖の苦勞の結晶であり、この先祖の苦勞という無形のものを眼鏡橋という有形のものに投影させる形で、次の世代、その次の世代へと伝えたいと願っている。そのため、菖蒲地区の住民の目につきやすい場所にあることが望まれていると考えられ、この継承と場所に注目し、今後の取り組みを検討していく必要があると考えられる。
白鬚神社	白鬚神社は、約 130 年続く鉦浮立が開催される場所でもある。そのため、場所が非常に重要となり、この点を踏まえて、今後の取り組みを検討していく必要があると考えられる。

なお、「残したい」が特に強く読み取れたもののうち、現実的な取り組みが想定できないものとして、思い入れの景観が該当する。確かに、思い入れの景観そのものを現状のまま残すことは、貯水池の存在といった直接的な改変によって逃れることができない。しかし、「残したい」を強く意識させた要因、つまり、「残したい」を意識させる思い入れの景観の構成要素に注目した場合、その構成要素を新たな景観形成の中に取り込んでいくことで、思い入れの景観の存続といったことが可能と考える。

例えば、「b) B'グループ」で述べたように、周辺の自然と一体化した石造構造物に、多くの人が「残したい」といった意識を強く持っていた。そのため、石橋や石垣のような要素を、今後の地域景観づくりの中に取り入れていくことにより、その地域の景観を新たに「思い入れの景観」として継承していくことが可能ではないかと考える。思い入れの景観そのものの存続ではないが、思い入れの景観への「思い」を継承でき

ると考える。

思い入れの場・物は、その特性上、地域づくりという観点から、地域の人々が地域のために議論をし、結論を導き出すものである。そのため、本報告書では、思い入れの場・物に対する住民の「思い」と今後の取り組みを考える上での留意点を整理した。

その結果を踏まえて、今後の取り組みとして、生活・風土に関する価値観を地域と共有し、保全の方策を協議していく。

本書に掲載した地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 20 万分の 1 地勢図及び 5 万分の 1 地形図を複製したものです。(承認番号 平 16 総複、第 199 号)